ANNUAL REPORT 2023

令和5年度 活動報告書

Rural Innovation Lab
KOBE UNIVERSITY TAMBASASAYAMA
神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ

TAMBASASAYAMA FIELDSTATION
丹波篠山フィールドステーション

農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ＋丹波篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根差した教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。2007 年に締結された神戸大学と丹波篠山市との地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり運営しています。

丹波篠山には、戦後、神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が学び、研究してきました。その後、当時を知る人々が少なくなる中で改めて関係性を再構築し、「地」と「知」の発展のため、丹波篠山フィールドステーションを開設し、大学と市が連携して活動を行うことになりました。

丹波篠山フィールドステーションでは、大学生が農家に学ぶ実践農学入門や、専門知識を活かし現場で活動する実践農学などの「食農コープ教育プログラム」を実施するとともに、さまざまな共同研究やプロジェクトが進められてきました。2014年からは、大学生・大学院生が丹波篠山に住みながら自身の専門知識を活かし、地域の課題解決を目指す「半学半域型」の地域おこし協力隊制度を導入し、地域人材育成に寄与しています。現在では起業を目指す社会人にも門戸を開き、地域資源を活用した起業により受入地域の課題解決を目指す「起業支援型」も展開しています。また、「食農コープ教育プログラム」受講をきっかけとして、学生が自主的に結成した学生団体が地域の課題解決や地域住民との交流活動を行っており、10年以上活動を継続している団体もあります。

さらに、2016年にはJR篠山口駅構内に神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボを開設するとともに、市と大学で事業推進の主体として一般社団法人EKILAB. を設立し、より充実した活動が展開できる体制を整えました。2022年1月には、これらの活動を持続的に発展させるため、EKILAB. を再編し、一般社団法人丹波篠山キャピタルを設立しました。

これからも、地域に根差したビジネスづくり、地域でチャレンジする人材の支援を行うとともに、新しい農村社会の形成につなげるような、価値創造的で実践的な研究に取り組んでいきます。

地域連携を支える 3 つの取り組み

1 地域創造研究

農村社会の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究を行います。また、自主共同研究の実施及び研究者等が丹波篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、現場とともに社会実験を進め、地域のより良い発展を目指して、他地域にも展開可能な地域課題の解決方法を提案・実施します。

丹波篠山で実践されている研究の多くは学会だけでなく、市民に向けても広く発信しています。

2 地域人材育成

丹波篠山の農山村を舞台に活躍する学生や若手実践者など、地域発展と課題解決を目指したイノベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。

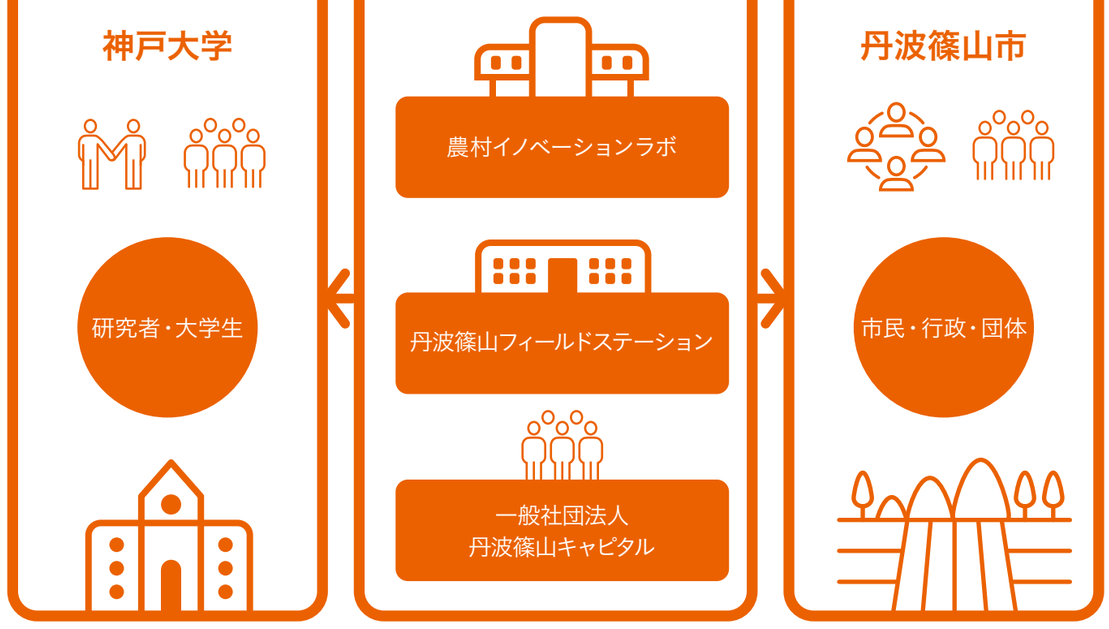
「食農コープ教育プログラム（大学生向け）」や「篠山イノベーターズスクール（社会人向け）」など、地域に根差した実践的な学習プログラムを企画・支援します。

大学生から社会人まで、農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実践しています。

3 活動・情報支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援するとともに、各種ワークショップやセミナーなどを開催することにより、情報の共有や参画する人々のスキルアップを支援します。また、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートも行い、丹波篠山の発展に寄与していきます。

各種の成果発表会やセミナーなどを通じて大学の取組や事業を公開しています。



メンバー

大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが地域連携プログラムを推進しています

神戸大学

田中丸 治哉
リーダー
神戸大学大学院
農学研究科 教授

安部 梨杏
神戸大学
丹波篠山駐在研究員

三原 香奈子
神戸大学
丹波篠山駐在教育研究補佐員

中塚 雅也
神戸大学大学院
農学研究科 教授
(一社)丹波篠山キャピタル代表理事

丹波篠山キャピタル

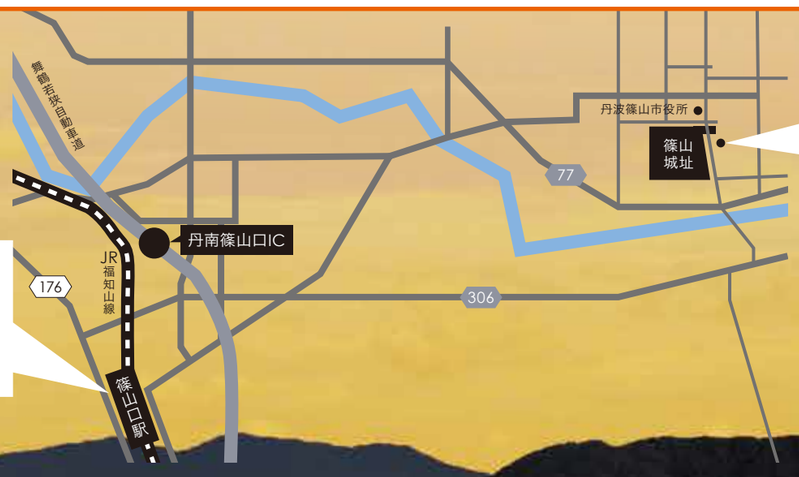
谷川 智穂
(一社)丹波篠山キャピタル
ディレクター
篠山イノベーターズスクール
チーフコーディネーター

瀬戸 大喜
(一社)丹波篠山キャピタル理事
地域しごとサポートセンター丹波
センター長

谷垣 友里
(一社)丹波篠山キャピタル
地域おこし協力隊
チーフコーディネーター

河口 英樹
(一社)丹波篠山キャピタル
地域おこし協力隊
コーディネーター

岡久 萌菜
(一社)丹波篠山キャピタル
コーディネーター



神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ
〒669-2212 兵庫県丹波篠山市大沢165-3
Phone/Fax. 079-506-6628

丹波篠山フィールドステーション
〒669-2324 兵庫県丹波篠山市東新町4-5
Phone/Fax. 079-506-2366

E-Mail・HP・SNS

神戸大学・丹波篠山市地域連携プログラム
Mail　ans_chiiki@sasayamalab.jp
H P　http://sasayamalab.jp
sasayamaXkobe.univ
kobesasayamalab

一般社団法人丹波篠山キャピタル
Mail　info@tscapital.jp
H P　http://tscapital.jp
tambasasayamacapital.jp
tambasasayamacapital

まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

1 地域創造研究

地域運営組織の運営支援に関する研究

安部 梨杏（丹波篠山駐在研究員）
中塚 雅也（農学研究科教授）

まちづくり協議会（地域運営組織）の人材不足が課題となっている丹波篠山市において、持続的な運営を可能とする支援のあり方や、支援に関わる主要なセクターの行政や中間支援組織の育成方法について明らかにした。

KEYWORD 中間支援、地域運営組織、人材育成

地域おこし協力隊活動のコンフリクトとその対処

安部 梨杏（丹波篠山駐在研究員）
中塚 雅也（農学研究科教授）

中間支援組織等のコーディネーターに求められる技能を明らかにするため、丹波篠山市における地域おこし協力隊隊員とその受け入れ先であるまちづくり協議会の間に生じるコンフリクトとその対処を明らかにした。

KEYWORD コーディネーター、地域運営組織、地域おこし協力隊

丹波篠山市内の祭囃子等の保存・伝承

三原 香奈子（丹波篠山駐在教育研究補佐員）
安部 梨杏（丹波篠山駐在研究員）

近年、丹波篠山市内の神社で行われる祭礼の鉾山・神輿等の引き手、担ぎ手、囃子を演奏する乗り子が減少し、保存・伝承が急務となっている。本研究では、篠山春日神社祭礼について祭囃子の音源の保存、楽譜化等書面での記録の検討、演奏技術向上の手法を研究する。

KEYWORD 祭囃子、篠山春日神社、秋祭

兵庫県丹波篠山市における市史編さん事業のための研究と検討

奥村 弘（人文学研究科教授）
松本 充弘（人文学研究科特命助教）

1999 年の合併以降初の市域全体の自治体史編さんを目指し、住民・行政と連携し、歴史資料の所在調査に取り組む。調査成果は市史編さん委員会や、展示や報告会などを通じて住民とも共有する。さらに編さん後に市民が主体となった地域歴史遺産の保全・活用方法を追求する。

KEYWORD 丹波篠山市史、地域社会、地域歴史資料

黒大豆の機能性研究

山下 陽子（農学研究科准教授）

丹波・篠山地域は、大腸癌患者が少ないことがわかっており、特産品である黒大豆の摂取が腸疾患予防に及ぼす効果を医学研究科と共同で検証した。また、成果を応用して、黒大豆ポリフェノールを高含有する商品の開発や生産性の向上に向けた取り組みも行っている。

KEYWORD 黒大豆、大腸癌、ポリフェノール

ため池事前放流による雨水貯留容量の確保と洪水軽減効果の評価

田中丸 治哉（農学研究科教授）

丹波篠山市、丹波市、淡路市、洲本市、南あわじ市のため池群を対象として、営農に支障のないため池事前放流によって確保できる雨水貯留容量を見積もるとともに、その洪水軽減効果を評価している。

KEYWORD ため池、事前放流、雨水貯留容量、洪水軽減

地域人材育成エコシステムの構築

中塚 雅也（農学研究科教授）
安部 梨杏（丹波篠山駐在研究員）

丹波篠山市と神戸大学の地域連携事業を持続的に担う法人として丹波篠山キャピタルを設立・運営し、地域課題の解決や地域づくり、起業・継業支援を通じた移住支援など、地域運営や産業の振興に向けた地域内外の人材育成の仕組みを実践的に探る。

KEYWORD 篠山イノベーターズスクール、起業・継業、丹波篠山キャピタル

篠山城南堀のハスのモニタリング

鈴木 武志（農学研究科助教）

2005 年に篠山城南堀で蓮が枯死した原因を明らかにし、2018 年に再生・開花した。現在は南堀一面での再生時期を予測し（2023 年秋）、維持できるようにモニタリング中である。

KEYWORD 篠山城蓮、蓮一斉枯死、侵略的外来種

地域食文化の継承と創造のためのプラットフォームの構築

岡久 花衣（農学研究科学生）
中塚 雅也（農学研究科教授）

地域固有の食材や料理といった地域食に焦点を当て、農村高齢女性の地域食継承の特徴と課題を明らかにするとともに、継承の新たなアクターとして移住起業者の役割を解明することで、今後の地域食の継承の要点を考察した。

KEYWORD 伝統食、女性グループ、移住者

学生援農ボランティアの地域による受け入れ継続条件の解明

中川 晶太（農学部学生）
小川 景司（農学研究科助教）

2013 年より学生サークル「にしき恋」が援農ボランティアを行っている丹波篠山市西紀南地区において、農家及びコーディネーターの受け入れ実態や、受け入れ目的、感じてきた効果を明らかにし、持続的な援農ボランティアを実現するための知見を蓄積する。

KEYWORD 学生援農ボランティア、大学地域連携

経済実験による丹波篠山黒枝豆の販促政策の検討

岡本 美咲（農学研究科学生）
八木 浩平（農学研究科准教授）

丹波篠山黒枝豆の適切な販売方法を探るため、丹波篠山市や農協と連携してアンケート調査を実施した。ケース 3 の BWS という手法を用いて、消費者の購買意欲を分析するために、枝付き、枝無しの黒枝豆について、産地、有機栽培かどうかによる消費者の支払い意志額への影響を調査した。

KEYWORD 丹波篠山黒枝豆、BWS、消費者行動、販促活動

2 地域人材育成

食農コープ教育プログラム

実践農学入門（履修者42名）

2023 年度は雲部地区の農家に弟子入りし、農作物の栽培やむら仕事を体験しました（5 回）。また、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップを含む校内学習を 3 回実施し、1 月に地域で成果発表会を開催しました。

農作業を体験
受入農家の指導の下、黒大豆や野菜の栽培などの作業を行い、農家の仕事を体験しました。

地域の方々との交流
地域の環境や暮らし、農業が直面している課題などについて、農家との対話の中で多くを学びました。

成果発表会
体験から学んだ事をもとにグループワークを行い、地域課題を見つけ、その解決策を提案しました。

実践農学（履修者12名）

調査やプロジェクトに実際に参加し、農村地域における課題解決に寄与する取組や施策の企画立案などを行いました。2023 年度は、古市地区において「ミチのムコウ」との共同プロジェクトと「ささやまポイント」の2つのプロジェクトで実践及び施策の企画立案に取り組みました。

「ミチのムコウ」プロジェクトに参加
地元農家中心の「ミチのムコウ」プロジェクトの一員として、酒米の田植え、稲刈り、お酒造りに参加し、「プロジェクトに継続的に関わる人材の確保」という課題設定で活動を行いました。

ささやまポイント制度の提案
昨年度の実践農学入門での「農業ボランティアポイント制度」のアイデアから、農家へのヒアリングや市職員の方々との意見交換を通して、ポイント制度の企画立案に取り組みました。

篠山イノベーターズスクール

（第8期履修者：29名）（第9期履修者：31名）

篠山イノベーターズスクールは、夢・仲間・資源を、みつけ、つなげ、カタチにするためのローカルビジネススクールです。丹波篠山市が主催し、（一社）丹波篠山キャピタルが運営しており、神戸大学が企画運営の支援をしています。約 1 年間のプログラムで、地域に密着した実践型学習「CBL（Community Based Learning）」、講義形式でビジネスの理論と手法を学ぶ「セミナー」、ビジネスモデルづくりから地域での実践・離陸までを伴走型で支援する「起業・継業サポート」を通して、ノウハウ・セオリー・ネットワークを獲得します。

〈 2023 年度 CBL テーマ 〉
丹波篠山版 CSA をつくろう
人をつなぐ地域商店をつくろう
丹波篠山茶を売り出そう
みんなでつくる地域 DX ビジネス

スクールの概要はこちら
s_inno_school
sasayamainnovatorsschool

丹波篠山キャピタル
TAMBASASAYAMA CAPITAL

3 活動・情報支援

学生活動団体　3 団体

実践農学入門や実践農学を履修した学生たちが自主的に活動を続けています。

地域密着型サークル にしき恋
にしき恋は、農業ボランティアを始め、地域の小学生や中学生との交流といった地域との関わり、また丹波篠山市の名産である丹波黒大豆を栽培・販売しているサークルです。今年度は、毎週末農業ボランティアの活動を精力的に行うと同時に、小学生交流や、無人駅でのマルシェの開催、地域のお祭りへのお手伝いなど地域との関わりもより深いものとなりました。また、にしき恋のファームの方で収穫した黒枝豆と黒豆もオンラインや学内での販売などで完売することができ、今年は黒豆をきな粉にして販売する試みも行いました。

国際農業サークル AGLOC
「国際交流」と「農業」を軸に、神戸大学の留学生とともに月 1･2 回活動しています。コロナ禍が明けた 2023 年度は、より多くの留学生に農業や丹波篠山の魅力を感じてもらえるように活動をおこないました。メインの活動である農業ボランティアに加え、留学生の城下町観光のガイドや地域イベントへの参加など、様々な活動を通して、幅広い方々とつながりを結ぶことができました。

多世代交流拠点サークル Luonto
多世代交流拠点サークル Luonto は、2021 年度の実践農学の授業から誕生したサークルです。丹波篠山市城南地区における多世代交流拠点づくりを主軸とし、活動しています。本年は、活動連携先の「アグリステーション丹波ささやま」にて、学生カフェ運営に向けた内装整備を進めるとともに、掃除や、農業のお手伝いを行いました。また、放置竹林を活用した自然体験イベントや、子ども向けゆずジャム作りイベントの実施、縁日への参加など、季節に合わせたイベント企画にも積極的に取り組みました。加えて、神戸市灘区成徳小学校地区のお祭りのお手伝いをしたり、共に田植えや稲刈りに参加するなど、幅広く活動しました。

セミナー・イベント開催 205件

篠山イノベーターズスクール（丹波篠山市が主催、神戸大学が支援）の実施、丹波篠山研究発表会の開催など、丹波篠山をフィールドに起業活動や研究活動を行う人々への様々な情報提供や支援を展開するとともに、活動の場を提供しています。

視察件数　13件

単なる施設や活動の視察ではなく、地域と大学との連携について学びたいといった声や、視察者が実際に地域でできる活動について相談に来られる方が増え、大学と地域との連携拠点としての機能が広く認知されつつあります。また、留学生や他大学からの視察も行われており、交流も活発に行われています。

相談件数　207件

地域内外の方々から、起業や移住に関する相談、イベント企画や地域活動についての多くの相談がありました。神戸大学以外の大学生や地域の高校生にとっても、丹波篠山市での研究・活動の相談窓口となっています。

施設利用件数 458件

農村イノベーションラボのコワーキングスペース開放、丹波篠山フィールドステーションの登録制シェアオフィスなど、多くの方が利用しやすい仕組みを試行しています。